

處報 NASUKARASUYAMA

那須 烏 山

— No.78 —

2012
March
3

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

災害に備えよう	2
七合中閉校式	6
市政情報等	7
まちの話題	14
インフォメーション	16



みんなでおいしく「牛肉の日」(2月24日、七合小、関連記事13ページに掲載)

あの日を忘れない!!

東日本大震災から1年
3・11を風化させず
日頃から災害に備えよう

写真は震災発生時の状況です。



大赤根逆川線(曲畑)
南那須学校給食センター



烏山庁舎事務室
下江川中体育館





本市の災害支援を行う

京都大学防災研究所
畠山満則准教授

昨年4月4日に状況把握のため初めて市を訪れました。2週間ほど滞在し、地図情報などを組み合わせ、り災証明書や支援制度の申請書が発行できるシステムを初めて構築し、その後も、危機管理マニュアルづくりなどにかかわっています。

災害発生時は「自助」「共助」「公助」の3つがありますが、市民の皆さんにとって、まずは自分の身を守る「自助」が重要です。それができないと次の段階には移れません。

これまでの防災計画は、「本当の災害」を想定していない部分もあります。今回の具体的な職員の行動マニュアルづくりを通して、今後の災害対応は、向上するものと思います。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、本市においても震度6弱の揺れを記録し、市内全域で大きな被害を受けました。今月はその大震災から、

ちょうど1年が経過するため、この震災の経験を風化させることなく、日頃から防災に向けた備えができるよう、地域や家庭で考えてみましょう。

地震や水害など、様々な災害から身を守るためにには、日頃からの「備え」が重要となります。

チエック1 危険箇所を確認しましょう

災害発生時に危険な場所を示した地図をハザードマップといいます。地震、水害、土砂災害など、災害ごとに危険な場所は異なります。市では平成21年6月にハザードマップを全戸配布しましたが、ご家庭にない場合は、総務課窓口で入手するか、市ホームページでご覧いただけます。

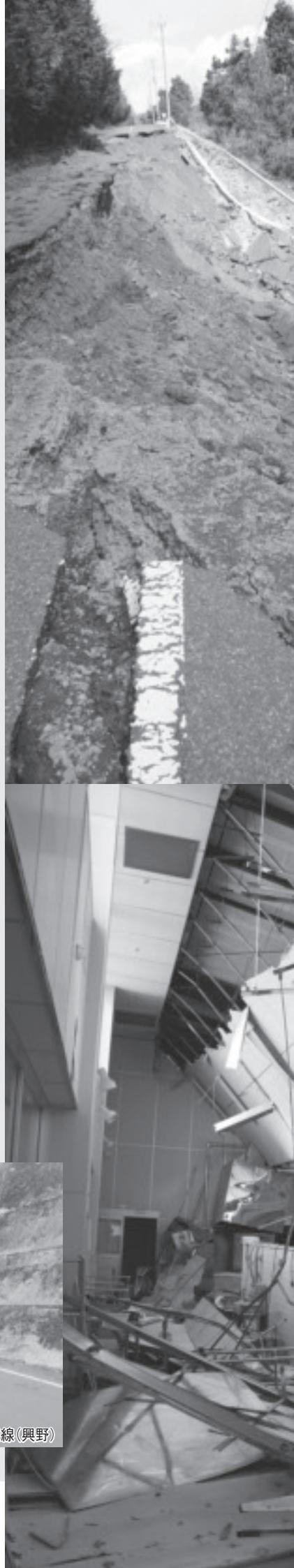
チエック2 もよりの避難場所を確認しましょう

避難場所を確認しましょう

避難場所の確認ができたら、避難ルートの確認をしましょう。それぞれの自宅から避難場所まで、安全なルートを事前に考えておきましょう。

○ 地震のとき

ブロック塀や積み上げた木材、くずれやすいがけなど、余震でくずれる危険のある場所はなるべく通らないよう



興野大沢線(興野)

チエック3 避難ルートを確認しましょう

避難場所を確認しましょう

お住まいの周辺で、どこが避難場所に指定されているか、どのようなとき、どこに避難するのかを確認しておきましょう。

● 地震のとき

ブロック塀や積み上げた木材、くずれやすいがけなど、余震でくずれる危険のある場所はなるべく通らないよう

にします。

○水害のとき

側溝にガードレールがあるような安全なルートを選択します。

かなど、地域でも普段から確認しておく必要があります。

チェック4

情報伝達手段を確認しましよう

災害発生時に、地域や家族の皆さんと一緒に避難できるとは限りません。安否を確認するために、情報伝達の方法を確認しておきましょう。

（災害伝言ダイヤル）

災害発生時は、電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤルにかければ、安否情報を録音したり、再生したりすることができます。いざというときのため、「忘れて171『いない』と覚えておきましょう。（震度6弱以上の地震発生、地震発生以外の自然災害で、電話が相当混み合っている時にサービスが開始されます。自宅電話、携帯電話等からも利用できます。）

チェック5

介助が必要な人を確認しましよう

避難するときは、ご自身の家族だけでなく、一人暮らしのお年寄りや、体の不自由な人などにも気を配りましょう。

避難のとき介助が必要な人がどこに住んでいて、どのように連絡を取り合う

チェック6

自宅の安全を確保しましよう

大地震から大切な生命、財産を守るために、住宅の安全確保も重要です。住宅の耐震改修や不燃化、家具等の転倒防止などの対応で、もしもの時に備えましょう。

また、食料や飲料水、懐中電灯や携帯ラジオなどの非常用品や、非常時に持ち出す貴重品をまとめておきましょう。

チェック7

土砂災害にも注意しましよう

国土の約7割を山地が占める日本では、地震や大雨などにより土砂災害が各地で発生します。がけ崩れ、地すべり、土石流、鉄砲水などに注意しましょう。土砂災害から身を守るために、日頃から地域の皆さんと土砂災害に関する正しい知識や、土砂災害の危険性がある場所についての知識を得ておくことが大切です。

雨や地震の影響で、ゆるくなつた斜面が突然、瞬時に崩れ落ちます。

（がけ崩れ）

豪雨などにより、ゆるくなつた斜面が下方に移動します。

（土石流・鉄砲水）

谷や斜面にたまつた土・石・砂などが、

豪雨や長雨による水と一緒に一気に流れ出します。

（こんな土地に注意しましよう）

丘陵を切り崩してつくられた造成地

は、地質や地形が不安定です。

（扇状地）

山間部への集中豪雨で土砂流が発生すると、山のふもとの扇状地が直撃を受ける恐れがあります。

（造成地）

急傾斜地は、雨でがけ崩れを起こす危険性があります。樹木の少ない山間



月次自治会の「防災の集い」(昨年11月19日)。

部では、土石流の注意も必要です。

の危険を確認し、安全な避難ができる
よう備えましょう。

「自分の身は、自分で守る」ことが大切
です。そのためにも、日頃から身の回り

で、昨年11月に地域をあげて防災訓練
市内では、月次自治会や小倉自治会

が実施されるなど、防災意識の機運が
高まっています。今後、地域でこの
ような取り組みが増えていくことが期
待されます。

本市が被災地であるにもかかわらず、
地震による津波で被害の大きかった東
北地方の沿岸地域に出向き、高校生を
はじめ、多くの市民が自主的にボラン
ティアで支援活動を行ったり、心のこ
もつた義援金が各方面から寄せられた
りと、「地域の絆」を感じることができます。
震災は不幸な出来事でしたが、この「絆」は、今後も大切にしていきたい
ものです。

今回の震災は、私たちの想像をは

るかに超える大きな被害をもたらしました。「災害は、忘れた頃にやってくる」という言葉のとおり、これらの経験を風化されることなく、後世に伝えてい
くことが、私たちの大重要な責務ではないでしょうか。



小倉自治会などによる「自主防災講話」開催時の炊き出し体験(昨年11月20日)。

◇ 東日本大震災は、市民生活に大きな影響を与えました。度重なる大きな余震に恐怖を覚える中、電気や水道などのライフライン、電話などの通信手段が寸断されました。その後も、計画停電やガソリンスタンドにできた長蛇の列。ブルーシートや乾電池などが入手困難となり、さらには、原発事故に伴う放射能問題。その影響はとどまるところを

知らない勢いで、広範囲に及びました。
そのため、市は、一部事務事業を凍結し、市独自の助成制度を設けるなどして、市民や事業者の復興を支援してきました。被災した多くの公共施設については、今後も計画的に修繕や取り壊しを行っていきます。

今回の震災経験を踏まえ、市は、畠山満則京都大学防災研究所准教授の指導を受けながら、地域防災計画の見直しや、職員の初動体制を明確にする危機管理マニュアルの策定作業を進めています。今後も復旧・復興に重点を置き、様々な計画の見直しを行いながら、安心・安全なまちづくりに取り組んでいきます。

※東日本大震災被災住宅件数(全壊66件、
大規模半壊17件、半壊116件、一部損壊2
877件、2月29日現在)

■ 総務課危機管理室

☎ 0287-83-1111



七合中学校閉校式

65年歴史を未来への一步に

新年度に烏山中学校へ統合し、廃校となる七合中学校（久保田久男校長）で、閉校式が2月11日に行われました。これまで5628人の人材を世に送り出した同校の65年に及ぶ歴史を振り返るとともに、未来への一歩を踏み出す決意をしました。

閉校式には同校の生徒90人や教職員、市関係者、歴代の校長やPTA会長、卒業生など約280人が出席しました。大谷範雄市長は、最後の在校生に向け「ここで貴重な体験を糧に、希望に満ちた新しい道を力強く歩んでほしい」と、続けて久保田校長は「七合中の歴史と伝統を未来につないでほしい」と、あいさうしました。

生徒会長の佐藤圭くんは「閉校は

さびしいが、思い出は無くなる訳ではなく、次の第一歩と考えたい」と

いさつ。最後に、校歌と「ふるさと」の歌を在校生全員で合唱しました。

続いて、同窓会による記念講演が行われ、第40回卒業生で、自治医科

大学の木村貴明医師が、脳死や臓器移植などについて講演しました。また、県内在住のシンガーソングライター「えりのあ」の閉校記念コンサートも行われました。



在校生全員による合唱。

■七合中学校のあゆみ

年月日	できごと
S22.4.1	学制改革により七合村立七合中学校創設
S22.5.1	七合国民学校校舎、興野国民学校校舎、七合警防団詰め所を借用し7学級で開校
S23.9.1	富士が丘の新校舎に移転し、9学級で授業開始
S23.12.4	新校舎落成式
S29.3.31	町村合併により烏山町立七合中学校となる
S41.3.10	体育館竣工
S52.7.10	プール竣工
S58.3.1	校舎改築のため校地造成開始
S59.6.25	新校舎（鉄筋4階建）へ移転、授業開始
S62.1.15	新体育館並びにクラブハウス竣工
S63.2.29	校門新設工事完成
H17.10.1	町村合併により那須烏山市立七合中学校となる
H24.3.31	烏山中学校と統合により廃校

学校給食センター

新築工事の安全を祈願

東日本大震災で被災した学校給食センターの新築工事に伴い、施工者による地鎮祭が2月20日に行われ、荒川・佐藤・荒井特定建設工事共同企業体をはじめとする施工者、市、市議会など関係者約40人が出席し、工事の安全を祈願しました。



大谷市長が安全を祈願しくわ入れ。



増渕校長が信号機の電源を入れる。

2月3日には、
境小学校、那須
烏山警察署、市
などの関係者が
立会い、信号機
の点灯稼動式が
行われました。
この信号機移
設により、児童
の道路横断時の
交通安全向上が
図られました。

この工事は、昨年の東日本大震災で、下川井の南那須学校給食センターが大きく被災したため、県道宇都宮那須烏山線沿いの荒川中学校入り口付近に、新たな調理場を設置するものです。今回の新設に伴い、烏山小学校学校給食共同調理場を設置するものです。

場、烏山中学校給食共同調理場を統合し、新施設で市内全小・中学校の給食を調理することになります。今後、9月からの給食調理開始に向け、工事が進められます。施設の概要は、次のとおりです。

■学校給食センターの概要

○住所	大金120番地1
○敷地面積	4251.71m ²
○延べ床面積	1961.71m ²
○建物構造	鉄骨造一部2階建て
○主な設備	蒸気回転釜、スチームコンベクションオーブン、連続式揚物機、システム洗浄機、食缶洗浄機等
○調理食数	約2,400食
○着工	2月着工
○竣工	8月竣工予定

■市の工事請負等契約

(前月20日までの入札結果、単位は千円、250万円以上)

事業名	箇所	業者名	金額	工期
戦略作物生産拡大関連基盤緊急整備事業 小倉地区水路・暗渠排水工事	小倉	木島興業(有)	7,035	1/23~3/9
戦略作物生産拡大関連基盤緊急整備事業 堀抜地区水路工事	初音	(有)清美建設	8,032	1/27~3/9
藤田地区防火水槽築造工事	藤田	(有)板橋建設	3,895	1/23~3/19
那須烏山市学校給食センター新築工事	大金	荒川・佐藤・荒井 特定JV	317,100	2/2~8/10
那須烏山市学校給食センター新築工事(電気設備)	大金	光陽・斎藤 特定JV	84,997	2/1~8/10
那須烏山市学校給食センター新築工事(機械設備)	大金	岩原・滝田 特定JV	239,043	2/2~8/10
志鳥東線道路災害復旧工事(23年災/184号)	志鳥 小志鳥	木島興業(有)	3,444	2/2~3/23
平成23年度 地籍調査事業 横枕Ⅲ、横枕Ⅳ、 曲田Ⅰ、曲畠Ⅵ 地区 検証測量等業務委託	横枕地先、曲田 地先、曲畠地先	(株)ニッコー	4,725	2/2~3/26
田野倉小白井線設計業務委託(道路保全費)その31	小倉	(株)都市開発コンサルタント	2,835	2/6~3/26
東日本大震災 農地・農業用施設 5/215 510/215 災害復旧事業	曲田	(株)中山建設	7,350	2/17~3/27
東日本大震災 農地・農業用施設 8/215 514/215 519/215 災害復旧事業	福岡	木島興業(有)	4,263	2/17~3/27
宮内清水線道路整備工事(道路保全費)その1	向田	(有)高沼ブロック工業	4,200	2/20~3/26

※入札等に関するお問い合わせは、総務課管財係☎0287-83-1111まで。

こころを元氣にするメッセージ募集結果のお知らせ

言わせてうれしい



ありがとう

毎年2月22日は、「こころを元氣にする日」です。また、2月20日～26日は「こころを元氣にする週間」です。市では、こころの健康について考えるため、1月4日～20日に「こころを元氣にするメッセージ」を募集しましたので、その結果を報告します。

小学生・中学生部門 【友達・家族に言わせて

うれしい言葉

すべての学年で「ありがとう」が最も多く、全体の3割以上がこの言葉がうれしいと答えています。特に、小学校低学年では、「お手伝いしてくれてありがとうございました」といった、具体的な言葉が書かれています。次に多いのが「よく頑張ったね」「次頑張ろう」といった励ましの言葉でした。

小学校高学年、中学生では、「ドンマイ」など、友人からの声掛けの言葉も多く見られました。

一般部門

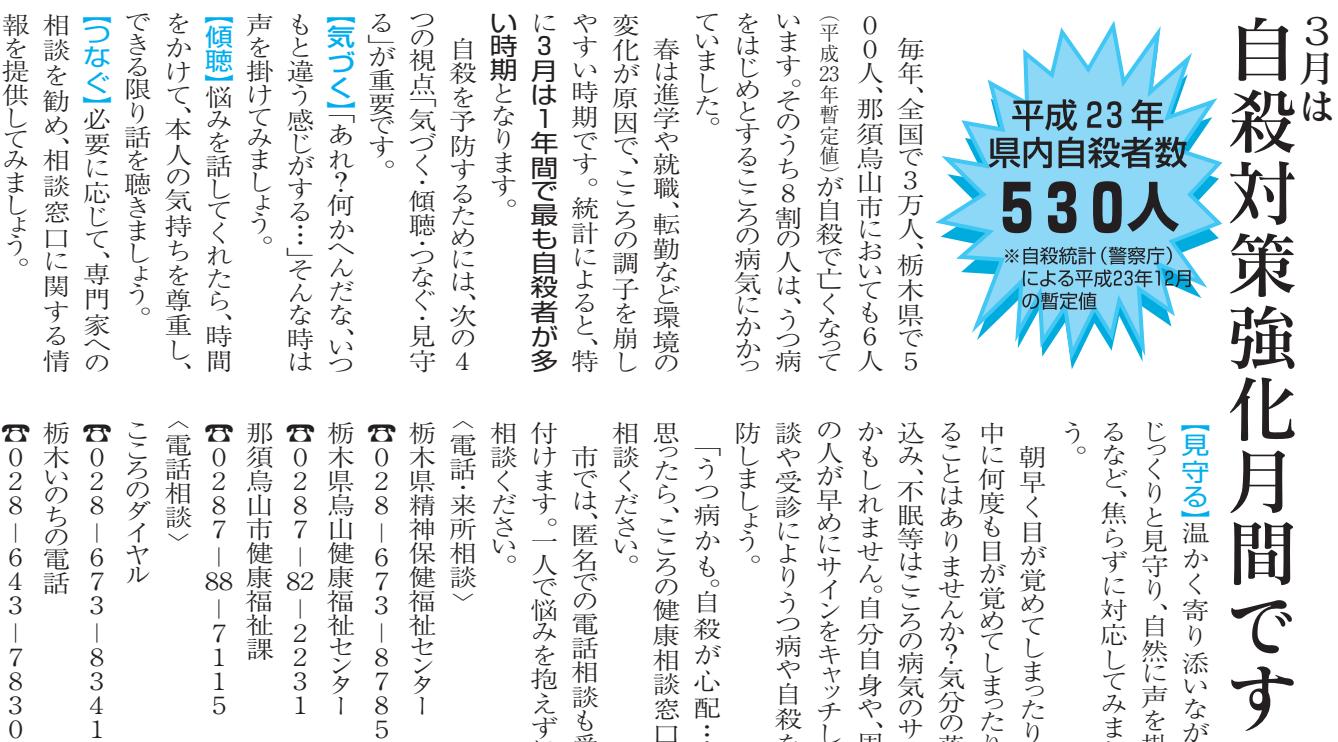
【こころが元気になつた出来事】

市内から4点、市外から2点の応募がありました。市内の応募作品をほぼ原文のまま紹介します。

「新年早々に大和久福祉会に入居している人が『明けましておめでとう！寒いから風邪ひかないでね』と声を掛けてくれました。」(八重子様)

「あせらない、比べない、私は私。思っているがままに、もう一人の自分と対話し、考え、見つめ、確認しながら、やるべきことをしつかりやる。まずは歩いてみよう！自然が心を浄化してくれる。」(八重子様)

普段何気なく使っている「言葉」ですが、掛ける言葉ひとつで、相手の「こころ」が元気になります。小さなことでも「ありがとう」と声を掛けてみませんか。



チーム龍JIN 奥成さんが講演



被災地での活動を講演する
奥成さん（上）／壇上で表彰
状が手渡される（右）。

地域福祉の推進のため

社会福祉振興大会を開催

地域福祉の振興を図るため、第7回那須烏山市社会福祉振興大会が2月18日、南那須公民館で開催されました。

式典では、主催者を代表して熊田親男那須烏山市社会福祉協議会会長が「地域の人々が共に手を携え、人としての尊厳を持ちながら暮らしていける社会づくりを目指す」とあいさつ。続いて福祉の分野で活躍された75の個人や団体等に、表彰状や感謝状が贈られました。

その後、記念行事として、チーム龍JINの奥成大輔副キャプテンが、「心に寄り添う復興支援」と題し、東日本大震災による被災地支援の活動状況を講演しました。

元気あっぷ市民の集い 講話と実技で心を元気に

市民の心を元気にするために市は2月22日、元気あっぷセミナーを保健福祉センターで開催しました。

まず、自治医科大学公衆衛生学の中村好一教授を講師に迎え、「早死の手引」、更に「那須烏山市の健康づくり」と題した講演が行われました。中村教授は、市民全体会が健康になれるように、他の人に关心を持ち、心配な時は専門家につないだり、見守るよう話をしていました。

続いて、栃木健康俱楽部の小室史恵健康運動指導士による運動実践では、リラックスするための実技などもあり、参加者は心も体もリフレッシュしました。



参加者もストレッチでリラックス。

向田ふれあいの里で防災訓練



車いす利用者も安全に避難（上）／心肺蘇生法を学ぶ
参加者（下）。

地域の高齢者が広く利用する向田ふれあいの里で2月21日、同施設管理運営委員会（永野益夫会長）が防災訓練を行いました。

当日は、南那須広域行政事務組合の消防署員を講師に招き、AED（自動体外式除細動器）を使った心肺蘇生法や消火訓練、車いす利用者を安全に避難させる訓練などが行われました。約60人の参加者は、署員の説明を真剣に聞き、非常時に備えました。